

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

草津市立志津南小学校

教諭 水野颯人

1 単元名 「地域の食材を使って献立作り～感謝の思いを料理で表す～」

2 単元の目標

・地域の食材を使用する地産地消の価値を理解して、1食分の献立作成の方法や材料に適した料理方法で、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 (知識・技能)

・地域の食材を使った1食分の献立の栄養バランスやおいしく食べるための調理計画及び調理の仕方について課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価、改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

(思考・判断・表現)

・地域の食材を使った栄養バランスの取れた食事や調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、実践しようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では家庭科「こんだてを工夫して」、総合的な学習の時間「地域に恩返しプロジェクト」を教材として取り上げる。

本校の6年生は毎年、1学期に総合的な学習の時間でお世話になった学校に恩返しをする活動に取り組んできた。内容としては、児童が学校にはどんな課題があるのかを調べ、問題解決に向けて計画・実践するというものだ。しかし、本学級では恩返しをしたい対象は学校だけでなく、今まで支え見守ってくださった地域の方に目を向ける児童も多くいた。

そこで、今年度は地域に恩返しをすることを単元の目標とした。まず、学級で改めて地域のよさや課題について考えていく。志津南学区には、多種多様なお店が立ち並んでおり、住みよい町となっている。しかし、高齢化が進んでいるという課題もある。地域の方にいつまでも健康に長生きしてほしいという思いのもと、志津南学区の強みのお店の方の力を借りつつ、地域の方へ栄養バランスの整った献立を考

え、料理をふるまうことで地域に恩返しをしていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでたくさんの地域の方との関わりの中で学習を進めてきた。地域の方たちに支えられて、安全に過ごすことができていることに気付いたり、自分たちを支え見守ってくれた地域の方に恩返しができないかと考えたりする児童は多くいる。また、本学級の児童は調理実習の活動に、班で協力して取り組んだり、自分で作ったものを食べることに喜びを感じたりしている様子が見られた。そこで、本単元の「地域の方に向けて献立を考え、料理をふるまう」という目標を持つことで主体的に活動することを期待する。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず志津南学区の良さや課題について考える。良さとしては、「地域の方がよくしてくれる」「色々なお店がたくさん立ち並んでいる」などが意見として出るであろう。課題に関しては、こどもたちの経験から予想をするだけでなく、実際に地域の方から話を聞くことを通して、地域のリアルな課題や思いに触れるようにしたい。そして、自分たちも地域の力になりたいという思いを高めていきたい。

次に、家庭科「こんだてを工夫して」の学習とも関連させ、地域の方に喜んでもらえるような献立を考え、料理をふるまうことを目標とすることを伝える。志津南学区のよさの1つである、多種多様なお店が存在することに注目して、地域のお店にも協力していただく。中には、草津市の特産品であるあおばなを使ったタリアテッレを提供しているお店も存在する。そこで、地産地消の考え方や献立を作る際の工夫についての講話をお店の方から聞くことで、地産地消の良さや献立作りのイメージができるようにしていきたい。そして、最後には地域のものを使った献立を班ごとに実際に調理し、感謝の思いを伝える会を設け、児童と地域の方の交流の場としたい。(※可能ならば地域の飲食店で、児童が考えた献立をランチメニューとして提供してもらおう。)

そして、地域の方に恩返しをすることを通して、喜んでくれる人がいることや誰かの役に立てるといふ成功体験を積むことで、今後の生活でも更なる行動の変容を期待する。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせる ESD の視点

連携性：地域の課題は、年齢に関係なく地域全体で支えていくことが大切であること。

責任性：地域の課題を見付け、「自分事」としてのもの見方や考え方を捉え「行動

化」できること。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ・ 未来像を予測して計画を立てる力

お店の方からの地産地消や献立を作る際の工夫を参考に、地域に住む方々に喜んでもらえるような献立を計画、調理する。

- ・ 進んで参加する態度

地域の方のために自分にできることはないかを考え、意欲的に関わりを持とうとしたり、考えや意見をつくったりして、貢献しようとする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・ 幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

食を通して、自分の幸せや周りの人の幸せについて考え、自分にできることを考える。

・ 達成が期待される SDGs

- ・ 目標 3：すべての人に健康と福祉を
- ・ 目標 11：住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
① 地域の食材を使用する地産地消の価値を理解している。	① 地域の方のお話から問題を見いだして、課題を設定している。	① 地域の一員として、主体的に課題を解決しようとしている。
② 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法や材料に適した料理方法について考え、地域の食材を用いた基礎的な日常食の調理が適切にできている。	② 地域の食材を使って、栄養バランスの取れた献立を考えている。	② 異なる意見や他者の考えを尊重しながら協働的に課題を解決している。
	③ 学んだことを相手にわかりやすく伝えている。	③ 課題解決に向けて、自分にできることを行動化している。

5 単元の指導計画（全10時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○志津南の良さや課題について考え、本単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店がたくさんあるよ。 ・高齢者の方が増えてきたね。 ・地域の方が見回りをしてくれているよ。 ・僕らにも何かできることはないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から実際にお話を聞くことで、リアルな実態に触れるようにする。 ・家庭科の学習「献立を工夫して」とも関連させて教科横断的な学びになるように進める。 	<p>△イ 1 △ウ 1</p>
2	<p>○地域の食材について調べたり、献立を考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を使うと環境にもやさしいね。 ・お世話になった地域の方に、元気になるような献立をつくりたいな。 ・栄養バランスに気を付けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の方より講話していただき、地産地消の良さや献立作りの工夫について理解を深めることができるようにする。 ・班で栄養バランスの取れた献立について考えをまとめて、発表させる。 	<p>△ア 1 △ア 2 △イ 2 △イ 3 △ウ 2 △ウ 3</p>
3	<p>○班ごとに考えた献立を調理し、地域の方に食べてもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「恩返しプロジェクト」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初めの言葉 2. 調理 3. 地域の方と一緒に食べる 4. 地域の方より 5. 終わりの言葉 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に班で調理計画を立てておき、それに沿って調理自習を行う。 ・調理をしているところも見ってもらうことで、児童の思いや気持ちをより身近に感じてもらう。 ・地域の方から感想を言うってもらうことで児童の頑張りを認めてもらう機会にしたい。 	<p>△ア 2 △ウ 3</p>
4	<p>○地域のために、今後も自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消をすることで、環境にも地域にも貢献できるね。 ・なるべく、地域の食材を食べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの観点から、継続的にできることを考えさせる。 	<p>ウ 1</p>